

ごあいさつ



経営管理委員会会長
竹村 敬三



代表理事理事長
川崎 宏

平素は、私ども滋賀県信用農業協同組合連合会（愛称、「JAバンク滋賀信連」）に対し、格別のお引き立てをいただき誠にありがとうございます。

このたび、当会への理解をより深めていただくために、令和4年度版ディスクロージャー誌を作成いたしました。ご一読いただければ、幸いに存じます。

我が国の景気は、新型コロナウイルス感染症に関する規制の緩和により、人流の回復やインバウンド需要の取込みにより、一部の業種で好転の兆しが見え始めるなど、経済活動の正常化が期待されています。一方、ロシア・ウクライナ情勢に伴う食料や資源価格の高騰等により、世界的な物価の高止まりが懸念されるなど、経済への下押し圧力も引き続きみられます。

金融情勢については、欧米各国の中央銀行が物価上昇を抑制すべく政策金利の継続的な引き上げを実施しており、日本国内においても日本銀行が金融緩和政策の枠組みを一部見直すなど、長らく続いていたデフレからの脱却を目指すとともに、これまでの金融緩和政策に対するレビューを行うこととしており、金融機関のみならず、企業活動や個人の生活等にも影響が及ぶ可能性があります。

一方、農業情勢に目を向けると、我が国の農業は、農業従事者の減少や高齢化に伴い、大規模な農業経営体のシェア拡大や農地集積が進むなど、農業の構造改革が始まっています。また、近年では、気候変動や紛争等の不測の事態に備え、食料安定供給の確保に向けた取組みが検討されるなど、食料安全保障への関心が高まっているところです。

こうした状況のもと、第16次中期経営計画の初年度である令和4年度の取組みを検証しつつ、JAの総合事業を活かした金融仲介機能の発揮と持続可能な経営基盤の確保に向けた支援ならびに当会の持続可能な収益性の確保に向けた取組みを着実に前進させているところです。

さて、令和4年度は、当会におきましては所期の目標を上回る成果をあげさせていただくことができました。このことは、ひとえに会員ならびに利用者の皆さま方の絶大なるご理解とご協力の賜物と厚くお礼申し上げます。

引き続き、目標必達に向け、役職員が一丸となり取組んでまいりますので、皆さまの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年7月